

平成23年度「自然再生学講座 環境・経済好循環分野」(佐渡市寄附講座) 研究活動とその成果について

新潟大学 朱鷺・自然再生学研究センター

はじめに

新潟大学は、佐渡市の寄附を受け、平成23年5月1日に「自然再生学講座 環境・経済好循環分野」を新潟大学 朱鷺・自然再生学研究センター(トキ交流会館内)に開設しました。

本講座では、平成26年3月までの3年をかけて、農林水産業を軸とした自然再生活動と地域経済が好循環する「環境経済システムの構築」に向けた研究教育に取り組みます。ここでは、学内外の教員や研究員、さらには佐渡の関係者の協力を得て実施した本講座における初年度(平成23年度)の活動とその成果についてご報告します。

ご報告にあたり、ご協力いただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。

■初年度の研究成果
本講座は、表に示した4つのサブテーマに取り組んでいます。

各サブテーマの研究の目標と23年度の成果について、その概略を以下に示しました。成果については、今後、さまざまな形で皆さまに還元する機会を設けていきます。

サブテーマ	担当者
1. 生物多様性に配慮した環境保全型農法の検討とその普及啓発に関する調査研究	西川 潮 (新潟大学超域学術院) *1 小林 頼太 (新潟大学超域学術院) *2 柘植 隆宏 (甲南大学経済学部)
2. 農林水産物の品質の安定性の評価	大坪 研一 (新潟大学農学部)
3. 環境保全型農業に基づく農林水産物の市場形成と拡大に関する調査研究	桑原 考史 (新潟大学超域学術院) *2 氏家 清和 (筑波大学生命環境科学研究科)
4. 農地の順応的管理システムの検証	横溝 裕行 (国立環境研究所・環境リスク研究センター)

*1: チームリーダー、*2: 佐渡常駐(寄附講座教員)

① 生物多様性に配慮した環境保全型農法の検討とその普及啓発に関する調査研究

(1) 生物多様性に配慮した環境保全型稲作の取り組み効果の検証

この研究では、農薬・化学肥料の低減、ふゆみずたんぼ、江の創出といった「朱鷺と暮らす郷づくり」認証制度にもとづく環境保全型農業の取り組みが、水辺の生物多様性に及ぼす影響を評価します。また、実験田を活用して、水辺の生物多様性を向上させる栽培管理方法の検討を進めます。これらをもとに、水辺の生物多様性指標や、生物多様性の再生に有効な環境保全型農業、さらには新たな認証基準の提言を試みます。

これまで、佐渡全島の水田で生きもの調査を行ない、また国中平野において、農薬低減とふゆみずたんぼの取り組み効果を検証しました。その結果、江が設置された水田と無農薬栽培田で生物多様性が高い傾向が認められました。

(2) 農業者の環境保全型農業に対する取り組み意識の解明

佐渡島の農業者を対象とした全島規模のアンケート調査を通じて、農業者が取り組みやすい環境保全型農業の推進体制を検討します。アンケート調査の結果をもとに統計モデルを構築し、認証農家・未認証農家の属性や意識の差、各栽培方法・農法を実施することの難しさ、を定量的に評価します。

23年度は、JA(佐渡、羽茂)に米を出荷している全5010戸の農家にアンケートを配布したところ、2231戸(認証農家589戸、未認証農家1642戸)から回答がありました。認証農家の特徴として、次のことが明らかになりました。

- ① 専業農家が多いこと
- ② 直販実施農家が多いこと
- ③ 知人に認証農家が多いこと
- ④ JA・佐渡市・消費者からの期待を強く感じていること
- ⑤ 認証制度の効果を認識していること

